

青年国際交流事業 事後活動推進全国代表者会議
日本青年国際交流機構 第82回全国推進会議
一般財団法人 青少年国際交流推進センター推進委員会
議事録

日 時：令和5年2月25日（土）14:30-18:15 26日（日）9:30-12:30

会 場：内閣府合同庁舎8号館1F講堂

司会：池田（事務局次長）

議事録：滝川（事業担当幹事）高橋（事業担当幹事）田島（事業担当幹事）

◆資料説明 資料格納先

<https://drive.google.com/drive/folders/1ampVIv9ORVG31P6VADC3LJQlmNQnwIjg>

内 容：

I. 開会挨拶

1 内閣府 青年国際交流担当：田中駒子参事官

本日はお忙しいなかお集りいただき、また皆様の日ごろからの協力に感謝申し上げます。今年度は3年ぶりに一部の国際交流事業ならびに、各地のブロックイベントを対面で行うことが出来、本格的な交流再開に繋がっている。今回の全国代表者会議も3年ぶりに対面での実施になり非常に喜ばしい。

国際社会青年育成事業は全国的に新型コロナウイルス感染者が増加している時期に実施が重なったこともあり、他省庁に先駆けコロナ禍における対面事業を再開した先行事例となった。事業中に新型コロナウイルス感染者が数名発生してしまったが、感染が拡大することはなく、地方においてもプログラムを実施していただき感謝申し上げたい。

育成事業における経験を活かし、「世界青年の船」事業においては実施の直前まで新型コロナウイルス感染症対策を入念に検討し、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって地方プログラムの訪問先を直前でも変更出来るバックアッププログラムを構築頂いた。実施直前に内閣府上層部に報告したところ、ここまで多岐にわたるバックアッププランを用意しているのかという驚きの言葉を受けた。おかげで国際交流担当室はコロナ禍における事業実施の好事例として他室からも問合せが来る状況である。推進センター並びにIYE0の協力のたまものであり、御礼申し上げます。

「世界青年の船」事業においても、インフルエンザの感染者は出てしまったが、新型コロナウイルス患者発生はゼロに抑えることができた。地方プログラムの受け入れをいただいた各都道府県のIYE0、事業を受注した推進センターにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

令和5年度は全面的な対面交流を復活させる。各地のIYE0とも協力し、事業をバージョンアップしていきたい。

II. 内閣府青年国際交流事業について：内閣府 梅田参事官補佐

①令和4年度 内閣府青年国際交流事業について

<資料1参照>

令和4年度については、国際社会青年育成事業と「世界青年の船」事業の2つの事業を3年ぶりに対面で開催することができた。特に12月はコロナが流行していたため、いろいろな制約のなかで国際社会青年育成事業を実施運営していたが、感染の拡大防止については1つの知見が出来たと思っている。コロナ禍での事業の再開にむけて、基本的な感染症対策にあわせて具合が悪くなった場合すぐに隔離することが大事なため、日々の体調確認を行い、必要な場においてPCR検査を実施した。新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下がったとしても、感染症対策は引き続き十分に行って事業を実施していくべきであると考えている。引き続き地方の受入においても皆様の協力をお願いすることになると思う。来年度以

降、今年の実験を踏まえて全面的に対面事業を実施していきたいと思っている。

その他のオンライン事業においては仮想空間のOVICEを駆使して新しいものを取り入れ事業を実施した。また「東南アジア青年の船」事業においては、オンラインでの地方プログラムという新しい取り組みを行った。対面交流の参加人数は、国際社会青年育成事業は日本参加青年が十数名、「世界青年の船」事業は50名程度。実際に参加した青年は久しぶりの対面交流に喜んでる様子であった。

今年度ご協力いただいた、地方プログラムは国際社会青年育成事業が新潟県、香川県。「東南アジア青年の船」事業が愛知県、島根県と熊本県。「世界青年の船」事業が青森県、宮城県、神奈川県、鳥取県、岡山県、高知県、大分県、函館市。令和4年度の募集広報について、全国の地方公共団体、大学へのポスター配布に加えてSNS等の広報を実施した。

ブロックイベントは資料一覧の通り、ハイブリッドのもの、オンラインのものなどあったが、準備をされる県の方は大変だとは思いますが、草の根の力がつくと思うので、引き続き盛り上げていただきたいと思う。残すところ、愛知県におけるハイブリッドのブロックイベントとなるが楽しみにしている。

② 令和5年度内閣府青年国際交流事業について

全事業で対面での交流再開を検討し、特に「世界青年の船」事業では14か国の青年を招へいし、船による新プログラムを実施する。

- 日本と世界の14か国の青年によるオンライン交流と船上での交流、寄港地での活動
- 世界各国との青年との船での共同生活による異文化交流等の機会を確保
- 青年がプロジェクトのプランニングから、現場でプロジェクトを実践する「地域実践活動」を新設(国内航路とすることで、感染症対応に係るリスクや管理コストを抑えつつ、寄港地での十分な活動期間を確保)

上記3つを重視し、実践力を高めるプログラムを予定している。来年度の寄港地は京都府→兵庫県→高知県を予定。新たなチャレンジとなるため、成果を次に繋げ事業を発展させられるようご協力頂きたい。

国際社会青年育成事業は2022年まではオンラインのみ、今年度は招へいのみだったが派遣と招へいの相互交流復活する予定。日本・中国青年親善交流事業は対面での交流を模索したが、再開に向けて中国政府と協議中でありオンラインの交流になる可能性もある。日本・韓国青年親善交流事業については対面交流を実施予定。「東南アジア青年の船」事業はASEAN各国と調整中であり、船での再開は再来年度への繰り越しとなる見込みでまずはASEAN青年を日本へ招へいする事を検討しているが2023年は日ASEAN友好協力50周年にあたり、本年12月の「東南アジア青年の船」事業の外国青年招聘に併せて、大臣主催の記念レセプションを実施することを予定している。40周年時の記念行事に倣い、各国政府・事業OB/OG、各国大使等を招待する予定。

選考スケジュールについては、募集を4月上旬開始、選考を5月に実施し6月に決定を予定している。

先ほど申し上げたとおり、地方プログラムについて13の府県市から受け入れ希望の返答が来ている。育成3、日韓3、東ア6となっている。今後実際のプログラムを踏まえどこに受け入れていただくか決定予定。

ブロックイベントについては以下の通り予定。

ブロックイベント前後で関係者連絡会議を予定している。

北海道・東北ブロック 令和6年1月20日(土) オンライン 秋田県

関東ブロック 令和5年10月21日(土) 現地開催 東京都

北信越ブロック 令和5年9月10日(日) 現地開催 長野県

東海ブロック 令和6年3月16日(土) 現地開催 愛知県

近畿ブロック 令和5年11月11日(土) 現地開催 兵庫県

中国ブロック 令和5年9月30日(土) 現地開催 (推進大会) 鳥取県
四国ブロック 令和5年11月26日(日) オンライン 香川県
九州ブロック 令和5年12月3日(日) 現地開催 大分県

事業説明会をオンラインで実施中。お知り合いの方にお伝えいただきたい。また、SNSでの有料広告を今年から開始する。Instagram、Facebook、Twitter等。
オンラインで鹿児島県IYE0が説明会を開催予定。各地の学生・社会人に自分たちが対象者だという意識を持ってもらうためには自分たちの県の先輩がいるという事が大きいと考えられ、事業の魅力を伝えるためご協力頂きたい。内閣府からの説明も必要であればご協力させて頂く。

選考については引き続きオンライン面接を予定。日程がタイトになるという事情もあり、内閣府の選考のみで行う予定。各地域との繋がりを作りたいという声も頂いており、面接へのご協力を依頼する可能性がある。

③内閣府と日本青年国際交流機構の連携・協力について：梅田参事官補佐

青年国際交流事業はコロナ禍の影響もあり、なかなか通常通り実施できなかった。そんななかオンラインで実施してきたが、昨年度在り方検討会議において、今後の事業の実施形態などについて議論が交わされ新しい事業の方針が提案された。そのうち国内外の参加青年に積極的に参加してもらうことが重要、「世界青年の船」事業においては、地方の公共団体などと積極的に協力していくことが重要と提案された。

検討会では3つのフェーズに言及されており、①募集選考段階で意欲の高い青年②実施段階で効果的なプログラム③グローバルネットワークを活かして活動を継続。各段階において、内閣府だけで実施、事業中のみというわけではなく、事業後の事後活動において育成していく必要があるため、IYE0との連携が非常に重要になっていくと思う。より一層内閣府とIYE0との連携が必要であると思うため、お互いに議論を進めていければと思う。広報、事業本体、IYE0ダッシュボード(データ、ネットワーク強化の充実)などがポイントとなると思う。引き続きIYE0と内閣府で協議をすすめ、再スタートをきる来年度の事業実施にむけて協力していきたい。

④質疑応答

【事業担当(INDEX)滝川幹事】

INDEXは今まで2か国派遣が続いていたが、1か国への派遣となるのか。
また、バルト三国との交流は長期間にわたり続いているという事は承知しているが、昨今のロシアのウクライナ侵攻関連での安全面が気になる。

【梅田補佐】

令和5年度について派遣は1か国、招へいについては2か国からを予定している。
今後外務省と調整が必要かと思うが、ロシア関連情勢は現在のところ派遣にむけて不安要素はないと思っている。

【社会貢献担当伊勢幹事】

参加申込書の次に将来設計書という応募書類が入っていたが、どのような物をイメージされているか。

【梅田参事官補佐】

将来設計書はあり方検討会の中で出てきた案。事業に参加した後どのような活動をしたかという事について提出していただきたい。具体的な記載内容については内部で検討中である。

【静岡県国分会長】

- ①来年度都道府県選考を行わないとのことだが、今後も行わない方針か。
- ②現在住民票のあるところで、応募することという規定になっていた。が、内閣府で一同に選考するというのであれば意味がないような気がする。県への帰属意識や、県で選考された意識が薄れると思われる。地方の活性化のためには、各県を通しての選考のほうがよりよいと思うので意見を言わせていただいた。

【梅田参事官補佐】

- ①再来年度以降の事については申し上げにくい、都道府県の職員の方にどの程度関わってもらえるか含めて考えなければならない。何らかの形で都道府県に関わっていただくことは考えたいが、令和6年度以降については迫って検討したい。
- ②いただいたお話も含めて再来年度選考について検討したい。

【佐藤（中国ブロック）幹事】

中国ブロックとしても国分幹事と同じ考えを持っている。都道府県の協力が無いとSWY新プログラムの実施は難しく、都道府県を巻き込む意味でも選考に絡めていただきたい。また、新会員確保という点でも都道府県（IYEO含む）に関わる仕組みを希望する。

【梅田参事官補佐】

やはり新しいプログラムを含めて、各地で参加した青年がその後活躍することが重要であると思っているため、各県への帰属意識は重要であると考えている。来年度以降検討したいと思う。

【亀谷（近畿ブロック）幹事】

事後活動については、内閣府からも活動資金のサポートもお願いしたい。引き続き後方支援のほどよろしくお願い申し上げる。
今から10年ほど前には、奈良県では応募段階で『事後活動ビジョン』といったようなペーパーを提出して頂いていましたことをお知りおき下さいませ。

Ⅲ. 一般財団法人 青少年国際交流推進センター事業報告

：本田推進センター事務局長

①内閣府からの令和4年度青年国際交流事業関連の契約

IYEOの情報発信及び内閣府メールマガジン配信対象拡大のため、IYEO会員情報の把握に関する支援業務を行った。メールアドレスが不明の方に向けて往復はがきを送付して、情報把握に協力した。また、活動奨励金交付要領並びにブロック会議等に対する補助金は締切が4/3(月)迄となっているので、自主活動を考えている方はぜひ応募してもらいたい。

本日の会議は3者共同開催で久々の対面での会議でもあるため、この他の下期の活動報告は資料参照とし、（一財）青少年国際交流推進センターの近年の状況と次年度の予定を説明させてもらう。

当センターは内閣府の国際交流事業に関わりたいという思いから1994年に設立。その後成長期においては、内閣府へ新しい事業を提案し実施した。また内閣府のみならず外務省JENESYS事業等の支援業務も行ってきた。平成25年度(2013)には「一般財団法人 青少年国際交流推進センター」へ移行し、内閣府の管轄下から外れ、それまで以上に自主事業などを実施するようになった。令和2年(2020)以降のコロナ禍においては、各都道府県IYEOを初め皆様にご心配いただいたが、独自のオンライン事業や他の業務を実施するなどして乗り切り、今年度は3年ぶりに対面事業を実施することが出来た。

2024年には青年国際交流事業60周年、センターが30周年であり、それを見据えて令和4年度は組織の方向性を見直し、職員のキャリアアップ(人材の育成)、働く環境の整備(働き方

改革、制度の最適化等)などを行ってきた。

今年度ははじめには職員の合宿をして、センターの有りたい姿を描き、今後育成した青年がどのような社会を作るか、という所まで考えを深めて事業運営に携わっていきたいと考えている。センターにはIYEO事務局を内部に置いているため、IYEOの動きやすい体制を作るという点にも注力したい。

先ほど申し上げたとおり新規事業を行っているが、収益構造を改善するまでには至っていない。設立30周年記念事業を計画していくため、皆様にも協力いただきたい。

現在職員の募集を行っており、仕事で国際交流に関わりたい方へご紹介頂きたい。また、3月4日開催の国際リーダー養成セミナーの参加者を募集中。SDGsをテーマにしており、SWY出身の2人に話を聞いて一緒に考える場となるべく企画している。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

①推進センターの事についてIYEOの役員達はよく知らない方もいるのではないかと。事業戦略策定等お役に立てることがあれば教えていただきたい。

②IYEOもリバイバルプラン含め、必ずしも47都道府県の活動が主でなく、チーム分けして活動している。活動奨励金など含め何か、センターもあれば。

【本田推進センター事務局長】

①年に2回の推進会議は正にIYEOの皆様へ推進センターの事について理解いただく場になると考えている。この場、及びそれ以外の場でも皆様に理解いただけるよう考えたい。

②現在変化の最中にあり、どう変えるかという点についてももう少し検討する時間を頂きたい。

IV. 日本青年国際交流寄機構（IYEO）議事

定足数確認：幹事会構成員28名及び都道府県IYEO代表者47名の計75名

定足数過半数38名、本日出席者65名、委任状4名→成立。

議長選出：幹事会構成員 白木副会長

都道府県代表 新潟県田窪会長

議事録署名人：小柳幹事（財政）、山形県青年国際交流機構福島会長

→拍手承認。

議事提案(はじめに)：工藤事務局長

3年ぶりの対面開催となり、皆さんのエネルギーを受けて若干緊張しているが二日間よろしくお願ひ申し上げます。

令和4年度の幹事会は6回、全国推進会議はIYEO主催を2回、内閣府、推進センター、IYEOの三者同時開催を2回、計4回の開催となった。

議長（新潟田窪会長）あいさつ①：

3年ぶりの対面での開催となり、直接お会いすることができて嬉しい。限られた時間ではあるが、有意義な会議となるよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

議長（白木副会長）あいさつ②：

わざわざ二日間東京に集まることができ、徹底討論を行いたい。

議案について初めての方については行けない方もいるかもしれないが、皆さんのことは皆さんで決めていきたい。推進会議の場で皆さんのアイディアを出すことで、今回決まらずとも数年掛けて決まる場合もある。

この時期だからこそ、我々が本当に大事にすべきことは何かを二日間で議論したい。変えるべき事、変えない事について議論したい。数十年後この推進会議で決めたことが内閣府事業との関係性等の土台になる可能性もあり、よろしくお願ひしたい。

【0】議決に関連する問題提起：長末会長、佐々木副会長

IYE0の入会率の低下について考える(危機感の共有)

- ・会員制度
- ・歳入のあり方(寄付制度、都道府県としてできること)

コロナ禍で実感されていると思うが、地方での活動がほとんどできず、新会員の確保もできず会員数が激減している現状がある。また事業参加者が、「何かに所属する」という意識が薄くなっていると感じられる。今年度事業参加者の入会率は本年1月時点で1割以下。この状態のままであると同窓会組織としての現実性が低くなるリスクがあり、都道府県IYE0では活動がままならなくなる可能性がある。危機的な状況とされており、今何かを変えないとしないと考えている。現在の会員制度は正会員賛助会員、一般会員となっており過去の経緯で会員制度が分かれているが、実質の違いはほぼ無い。今までは入会金を払った方のみ入会としていたが、今後仮称としてアルムナイ会員として、内閣府事業に参加した人の全入会を考えている。全入会について無料にするか否かは議論があり、会員制度の違いも今後統一したいし種別を分けるのであれば何らかの差別化を行いたい。全入会システムを導入するのであれば、現時点で会員の方が不利にならないようにしないとならない方法、例えば会員種別に応じて特典を付与するなど。さらに都道府県IYE0主催プログラムでの種別毎の差別化有無が挙げられるが、個人的には都道府県主催プログラムでの差別化は不要と考えている。会員それぞれが活動したい所での活動ができる様にできればよいが(居住地の他、出身地でも活動する等)それには事務局でのシステム対応が必要になるため、すぐには難しい可能性があり、来年度の事前研修までに方針を決定し、それを事前研修にてアナウンスできる様に進めたい。今後オンラインでの議論を続けて結論を出したい(5~6月を予定)

【佐々木(都道府県)副会長】

コロナ禍で新会員が入ってこず、モチベーションが上がらないという都道府県IYE0の悩みも聞こえている。今回対面の会議と言う事で議論を深めるべく、議決事項の概要説明という時間を取った。懇親会の時間を含めて議論を行っていただきたい。

恐らく全員加入に反対される方はいないかと考えているが、問題は財政面をどう改善するかという事にあると考える。今まで入会者の入会金に頼っていた財政面を寄付者に頼るのではなく、必要な都道府県IYE0が自分たちで資金を集めるという体制にしたい。

【議長：白木(社会貢献・財政)副会長】

要点をまとめると、組織のあり方とそれに紐づく制度を皆さんと議論したい。この場にいらっしゃる方のなかでも、入会金3万円をどのような名目・タイミングで支払ったかは違いがあると思うが最終的に何に使用するかは変わっていない。我々で支えなければならない物は何なのか、それを支えるために何が必要なのかについて本日議論したい。

【亀谷(近畿ブロック)幹事コメント】

会員になってから、昨今の激減する前から気になっていたが活動家増に対して私なりに向き合ってきた。もはや青年層、なかんずく、学生層を多く取り込むには困難な状況である。老若男女幅広い世代を取り込んでいく必要があるといろんな活動をさせて頂いて、強く感じている。

【生田(関東ブロック)幹事】

かつて3万円は同時振り込みだったのを取りやめたのは内閣府からのご指摘を受けてだったと理解している。今回参加費の中にいくらか(事務手数料?)を含めるという事になる場合、内閣府のご理解は頂いているか。

【長末会長】

もともと、内閣府の事業のなかでIYEOの金を取り扱うことができないことに代わりはない。どのようにIYEOの事務手数料なり入会金を納付してもらうのか、タイミングについてはこれから内閣府と検討する必要がある。事後研修においてIYEOの説明セッションがあるが、そこであからさまに入会金を求めると反発されるため、自然なタイミングで参加者に受け止めやすいように行いたいと思う。

【愛媛県芝会長】

2022年度の入会者のうち1名は愛媛だが、今年度事業参加者では無い。偶然愛媛県IYEOのプログラムに参加した（未入会者）人をお誘いしたところ入会いただき、来年度から理事になっていただける事になった。本部から都道府県IYEOに壮行会等の依頼が来ていると思うが、各都道府県IYEOに尋ねたいのは、そういった活動（壮行会等）をやっているかと言う事。ぜひ活動での勧誘を推奨したい。

【白木議長】

事例については大変興味深いが、皆さんからご発言いただくと時間を要する。GoogleFormにてみなさんからの意見を受け付けているため、自由記述記入してもらいたい。会議中に意見集約したい。

【1】広報（報告）：横倉幹事

広報チームとしては、IYEOの魅力発見を行うため活動してきた。IYEOが有名となれば、よりよい社会貢献活動が実行可能だと思われる。そのために広報活動、ブランディングプロジェクトを行った。WEBページ、SNS、メルマガの発信、フライヤHUMANOを発行してきた。IYEOの価値は「人」であるということから、人に特化した、活動報告やこんな人がいますというWEBページを次年度中に新たに作成したいと思う。

IYEOから発信されるメールの最後の署名に、広報に関する連絡先をいれている。ぜひ1人でもフォロワーを増やすなど広報活動を積極的に行っていきたい。

（新しくWEBリニューアル担当として任命された、川崎さんあいさつ）4年前の「世界青年の船」事業の既参加青年であり、昨年IYEO会員となった。現状のページでは画像度の違うフライヤーが載っていたり、手続きが複雑であったり、いろいろと解決し見やすいページを作ることが出来ると思ひ協力していきたい。

（質疑）

【生田（関東ブロック）幹事】

先日初めて広報URLを使用したけど、探すのに苦労した。よろずWEBに入れてほしい。

【工藤事務局長】

よろずWEBに各フォームは載せているが、広報は未だ掲載していなかったもので、すぐに対応する。

【2】戦略：本田副会長

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案

今回は今年度の振り返りと来年度の計画を報告する。賛同いただけるかどうか理解を深めていただくための質疑時間を取っているので活発な議論をお願いしたい。

年間を通して複数のミッションをこなすため進めてきた。制度の整備や、キャリアデザインセミナー（6回）を実施した。どのようにすれば事後活動の最初の一步を踏み出せるか分からないという方向けのセッションを行ってきた。本日17時から第6回のセッションを予定し

ている。令和5年度のキャリアデザインセミナーは神奈川副会長の金澤氏に講師として今後登壇いただく予定。また、オンボーディングのサポートも戦略担当のミッションと捉え、IYE0コミュニティへの導入を支援してきた。導入期、運用期、定着期のフェーズに分けてサポートを実施。新入会員は資料の通り。入金がまだの方もいるため今後若干増えると思われるが、長末会長からの提起の通り厳しい状況である。IYE0の持続可能性を上げるために戦略担当として取り組みたい。

全事業が終わった現段階で、都道府県IYE0での活動報告の機会を設けて頂きたい。来年度キャリアデザインセミナーの案内も事業参加青年に呼びかけたい。オンボーディングプログラムは来年度のミッションに加えたい。

② IYE0 Learning Program：本田副会長

第1回-3回が終了し、第4回目が予定されている。

関係団体との連携・情報収集については、資料の通り。

令和5年度の活動計画としては、活動組織と会員のマッチング支援サービスとして、3つの機能を備えた支援1. 活動組織から会員への情報発信、2. 活動組織から会員への人材公募情報発信、3. 会員から活動組織への問い合わせを考えている。

③IYE0キャリアデザインセミナー：伊勢（社会貢献）幹事

・2023報告：内容と成果、検証

この後今年度キャリアデザインセミナー参加者（2019～2021年度事業参加者）の発表を行う。若者達がどんなことを考え、どんなニーズがあるかについて皆さんと意見交換を行いたい。ゴールとしては二つ。①自分軸の構築②次のステップを踏み出せるかどうか。今年度については、例年手始めとなる「IYE0とはなんぞや」ということは飛ばし、まず参加者自身が何をしたいのか、何者なのかを明確にすることを優先した。

参加者の発表：4グループ

<Team1>齋藤有沙 手塚美咲 本田早紀 根本拓郎

（齋藤）昨年4月に社会人となったが、就職活動をきっかけにキャリアについて考える機会が増えて、セミナーに参加した。学んだこととしては、毎回テーマがあり、強み、大切にしたいことなど自分と向き合う時間によって自己を知り、同時に他の参加者と対話することで刺激をうけることができた。仕事以外でも関わりを求めて、それがさらに自分の仕事にも繋がればと思う。

（根本）職場以外のつながりが欲しくて参加した。なんとなくイメージしていた自分自身がやりたいことをセミナーを通じてどうやったら実現したいのか、何をしたいのかが明確となった。

<Team2>木村ひなた 北山英弥恵 湊紗恵 坪山真樹

（木村）コロナ禍で大学に入学したため、大学でのつながりが薄く、世界青年の船で得た貴重な経験を行動に移すために参加した。何かしたいという漠然とした想いを言語化することができ、地元において、オンライン国際交流プログラムを開催したいと思っている。

（北山）普段、障害者の就労支援に関わる仕事をしているがコアリーダー事業に参加した。セミナーにおいて人と関わるなかで一番大切にすることが分かったので、今後は興味のあることには勇気を出して行動していきたいと思った。

<Team3> 宇佐美佑華 鈴木あずさ 北村莉沙

（宇佐美佑華）昨年のSWYオンラインに参加し、社会課題解決にむけて、自分ができることを考えたかったのと、自分のキャリアの在り方について考えたく、セミナーに参加した。国際交流や外国人支援に興味があることが分かり、社会貢献チームの「えがおの輪チーム」に加入した。共生社会の実現にむけて、過去には外国の留学生のみなさんとオンライン花見会

などを行った。社会貢献活動という課題解決をイメージするが、居場所づくりが大事であることが分かった。セミナーに参加して自己理解が深まったり、他の参加者から刺激を受けることができた。これからはIYEOでの活動を通じて人生をより豊かにして自分自身を成長させたい。そして、他者のために少しでもできることをしていきたいと思っている。

<Team4> 松原あさひ 本田ひかり 山田美緒 小林真未

(松原) ちょうど自分がキャリアについて悩んでいるタイミングでもあり、参加した。同じように転職に悩んでいる人と話すことで自己を内省することにも繋がった。考える時のフレームワークを学び、自分にとって大切な価値感を学んだ。さらに社会に対してどう自分が貢献していくことが出来るかを学ぶことができた。

(本田) SWYに参加して以来、個別に交流する機会はあったがあまりIYEOとして活動することにはなかったのもっと交流し自分の世界を広げたいと思いセミナーに参加した。セミナーで事前に視聴する動画の課題などもあったが、それらも忙しい中視聴し、主体的にセミナーに参加し、無事にやりたいことが分かり別の職種に転職しよりよいキャリアをすすめていきたいと思った。

【島根県岡田氏】

好きなことを軸に仕事を考えているという事だが、好きなことを選ぶ事で金銭面や将来の事とのバランスはどのように考えたか。

【鈴木】

市役所で働いていますが、平日は仕事に、休日は自分の趣味である登山に時間を費やせるように仕事を決めた。仕事と好きなことのバランスをとることが重要。

【鹿児島高田幹事】

高校・大学でキャリアについて学ぶ機会はあったか？また、キャリア形成について考えるタイミングは今のほうが良かったのか？（高校・大学の時のほうが良かったか？）

【北村莉紗】

現在在学中だが、大学で卒業生による講演の機会がある。いろいろな職種を知るという点ではこういった機会はより多くあると良いと考える。

【亀谷（近畿ブロック）幹事】

チーム1の方々へ、素朴な質問だが、何故、仕事（職場）以外でつながりを持ちたいのだろうか。

【根本】

社会人1年目で分からない事ばかりだが、会社だとこれはこうあるべきという考えを感じる事が多く、CDSで新たな考え方・生き方を知れるというのは職場以外の良さであると考えている。

初日閉会挨拶：長末会長

半分くらいの参加者は初めてお会いする方々であるが、対面で会えてよかったと思う。来年度から内閣府の交流事業も大部分が対面形式に戻るということで、環境の変化にわくわくしつつ、withコロナの時代において、参加者から選ばれる組織にならないということを認識しないといけないと危機感を持っている。自分たちの立場で何が出来るのかを考えていくべきであると思っている。コロナ禍は世の中の色々なものを変化させる転換期であった。我々IYEOのメンバーは逆境に強くパッションのあるメンバーであるため、乗り越えていけると思っている。

【3】事務局

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案：工藤事務局長

令和4年度の活動計画事務局のミッションとして「IYEOに入って良かった」と思われる団体にとって活動してきた。令和4年度実施したこと事務局作業のDX化、大野さんを中心に実施。申請の簡略化、フォーム設定をする。活動の見える化、議事録の公開、議事録がすぐに公開されない、一般にみられるように公開する。

持ち越し課題としては二つ。会員のニーズに合った組織運営、活発な議論が生まれやすい会議の運営。改善していく。

令和5年度の活動計画、ミッションは一緒、バリューはやりたいことが実現できる、一緒に何かができるつながりができる。ゴールは、オンボーディングの手順確立、活動定着促進、キャリアカタログの利用促進、メールアドレス登録率の向上。70%まであげる。会議体の見直し。

② キャリアカタログ：大野事務局次長

IYEO Career CatalogueはIYEOの活動組織／活動支援組織と会員のマッチングを支援するサービスとして、あらたに新設された。

IYEOの活動組織の発信情報を集約・公開し、活動を探している会員とのマッチングを支援することで、会員のIYEO活動を通じたキャリア及びネットワークの形成と、IYEOの組織力・実行力・社会価値創造力を強化する。

情報発信メディアのない活動組織は会員からすると存在していないと同義なので、情報発信メディアを用意することをお勧めする。情報発信メディアがあっても最終更新が数年前だったり、別組織からの情報共有のみだったりすると、魅力的ではなく会員から選ばれる活動組織にならないので、改善をお勧めする。

② 活動報告：洲崎（青少年推進センター事後活動推進部）

活動報告の記入のご対応感謝申し上げます。毎回推進会議に合わせて、各都道府県で活動して頂いた内容を昨年からダッシュボードに対応するように、スプレッドシートに書いて頂いている。今回も2月終わりがメ切だが、まだ対応可能なので、半年に一回ということで、是非記入していただきたい。リンクが分からない場合は遠慮なくご連絡いただきたい。活動報告がなぜ大事かという、各都道府県で素晴らしい活動をされている、事後活動の予算も組まれているし、活動がいかに素晴らしいかを目で見ても残す一番の実績になるので、IYEOとしても貴重な財産の資料になっているため、貯めていきたいと思っている。大野事務局長の改善によって、これからやるものも記載できる、過去にさかのぼって記載も出来るので予定管理としても活用できるようになっている。是非ご活用いただきたい。会長が変わってやり方が分からないときは事務局まで聞いてほしい。今後ともご記入にご協力をお願いしたい。

③ 会議運営：池田事務局次長

IYEOの会議運営についてご説明させて頂く。おさらいとして、推進会議4回と幹事会6回、四役会4回開催してきた。

推進会議は社会価値創造に向けた共創活動、組織計画に関する意思決定を行う場であるということ強調して二日間しっかりと議論して欲しい。数年ぶりに全国から80名を経済的負担もあるなかで、東京に集まり会議開催をしているので、社会価値創造の出来る、有意義な時間を送りたいと思っている。1万人の会員と関係者の未来に関する重要な議論が出来たらと思っている。

事務局としては、各都道府県によっては情報が行き渡りにくいということもあったが、各会員の方にも各会議の議事内容を周知させる目的のため、議事録を公表し情報公開に勤めてきた。オンラインの発達によって非同期での議論が活発に行われるようになった。一方でオン

ラインが増えたことにより負担が増えた、関わりの温度差がある、幹事会以外都道府県での横の繋がりがより必要なのではという意見もあった。令和5年度の方向性としては推進会議を年2回実施運営を企画、鳥取全国大会（9月30日）の直前に実施、年度末3月に集合型で計画している。またその他随時オンラインでも会長選挙についての会議を設ける予定。これまでの会議は報告事項が多く、議論する場を充分にとれなかったという反省から今後は、報告事項は別日に成果報告の場を確保、活発な議論ができるようにしたい。また議決をしたが、その後の進捗が明確でない案件もあるため、具体的に進捗報告できるよう、また幹事会の頻度を減らしたがその分基盤整備やチームごとで集まる機会を設けたりするなど工夫して取り組んでいきたい。都道府県役員や幹事が情報交換できるプラットフォームを整備していきたい。

【横倉（広報）幹事】

広報とは関係ないがメールアドレス登録率向上について質問。登録済みメールアドレスの有効確認は毎年定期的にタイミングを決めて行ってもらえないだろうか。学生時代に参加した場合、大学のメールアドレスを登録して、そのまま音信不通になる場合がある。可能であれば都道府県総会の開催前に行ってもらえないかという相談。

【工藤事務局長】

今年度も定期的に予算を割いてはがきを出したり、ブロックイベントのタイミングで手紙を同封するなど対応出来ればと思うが、タイミングをいつにするか迷っているので、別途ご相談させてもらいたい。

【大野事務局次長】

無効なアドレスを早く消去したいということでもあると思うので、自動化の仕組みを考えている。また、内閣府の方をお願いしたいのは、学生にも大学のメールアドレスではなくて、卒業後も使えるものを登録するよう促してもらいたい。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

ダッシュボードやキャリアカタログの目的や必要性が理解されていないのではないかと。何をしたら良いのかという会員役員向けのオンボーディングに入れるように検討して欲しい。活動量の見える化、活動価値の見える化を出来るようにしてほしい。中長期の計画にに入れて欲しい。

【樋口（都道府県）幹事】

キャリアカタログの今日の資料はどこを参照すればいいのか。

【大野事務局次長】

まだよろずWebには載っていないため、今日よろずWebには載せる。
アドレスは以下の通りIYEO Career Catalogue : <https://sites.google.com/iyeo.or.jp/career>

【4】社会貢献：伊勢（社会貢献）幹事

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案

社会貢献は、事業別都道府県別だけでは若者のニーズにこたえられないので、今年度作った分野になる。動き出したばかりだが、白木副会長の先導により進めてきた。社会貢献としては資料を見れば分かるが、IYEOの課題として、IYEOはやはり人が全力であり、宝なので、もったいないを放っておかないというところで動いてきた。大事にしたいことは、わくわく中心アプローチ。わくわくするという内発的動機を中心に添えて、仕掛けや仕組みを作っていきたい。チャレンジが連鎖していくエコシステムを構築していきたい。ただ楽し

いだけでなく、そこに真剣度、社会課題や組織課題に対して真剣に取り組んでいくというシリアスファンを目指していく。昨日の若者の発表にもあったが、一人一人の人生が豊かに有意義に、多様な主体による多様なかわり方、大事にしたいのは対話と議論を主体として、お互い学び合えるコミュニティをつくっていく、未来志向やインパクト志向に基づいた交流・協働の促進、コーディネーターによる中間・伴走支援をしていく、人生100年時代の新しいキャリアの歩み方を重ねられたら良い。

方針は、内閣府事業出身者のグローバルなネットワークと事業参加経験を活かして、地域・社会・世界に貢献する活動を行い、共生社会を実現する。ミッションは資料に記載。活動施策は、交流&協働促進/会員基盤整備、オンラインなども重ねているが、令和5年度の内閣府事業協力がメインになっていく。世界青年の船の新プログラム、高知・兵庫・京都に寄港するプログラム。世界船を社会貢献として一緒に創り上げていきたい。新プログラムに力を注いでいき、それ以降のベースになると思うので、やっていきたいと思う。

② ファンド報告（チャレンジファンド・育成ファンド）吉村（社会貢献・財政）幹事
今年度は申請2件、令和4年度は、チャレンジファンド（上限10万円）は1件（沖縄復帰50周年企画「OKINAWAの名残」 沖縄県青年国際交流機構 岸信 朋(きしのぶ とも) 平成24年度第25回世界青年の船）と育成ファンド（上限30万円まで）1件（IYEOxOYWグローバルリーダー創出プロジェクト）が採択された。チャレンジファンドについては活動を終了している。復帰50年、沖縄ならではのものの名残、例えば牛乳の容量が全国とは違うなど、沖縄ならではのものをSNSで発信するという活動と12月に沖縄ツアーを行うというものだった。SNSでの発信が思うようにいかなかった。コロナ渦ということもあり、ツアーも一度で終わった。今後活動報告はIYEOウェブサイトに掲載する予定。2点目、育成ファンドについては現在も活動中であり、OneYoungWorldのグローバルリーダーを選出して、担当者が知見をいかし派遣者のアクションプランを明確にしてサポートしていくという活動。実際にマンチェスター会議に1名派遣した。3月中旬にはキャリアデベロップメントについて話すオンラインの場を設ける予定。活動報告はIYEOウェブサイトに掲載する予定。

質疑

【横倉（広報）幹事】

チャレンジファンドの件について、沖縄の件は申請時の企画をそのまま100%完了しなかった（沖縄ツアーを数回予定していたところ、実際は新型コロナウイルス感染症の影響もあり1回のみ開催となった）が、それでもファンドは承認、適応となるのか。計画実行として活動報告は掲載すべきなのか。

【白木（社会貢献・財産）副会長】

若者の事後活動のチャレンジを支援する事が趣旨、上手くいなくても、プロセスに着目して若者のチャレンジがあれば問題ない。減免をしたうえで執行するのが妥当なのではないか。今後、向こう3年間は色々な形でどういうふうに若者のチャレンジを応援していくかは本質的に改善していくのが前提。

【5】 財政：小柳（財政）幹事

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案

昨日の報告にもあったが構造的に赤字状態が続いている。打ち手としてサポーター制度を立ち上げたがまだまだ浸透が足りていない。ここを広げていく事が重要であるとし、仕組みとして、単発寄付やマンスリーサポートなどは今までであったが、大口寄付として、生前贈与の申し出も出ている。色々な形でIYEOの活動を活性化させる集め方のメニューは出てきている。どのようにIYEO全体としてお金を集めていくかは今後みなさまと相談していきたい。一方で大切なのは、お金の歳入について、集める事だけを考えてしまうが、若者のチャレンジを応援し、活性化させていくこと、集めたお金をどうやって使っていくかも合わせて考えていく。

並行して、事業の方で使っていく一方で、組織を維持するためのお金も必要なので、基盤としてお金を集めていく。今後の展開として寄付文化を作っていくつつ、どういう風に使っていくか入口・出口を整備していきたい。活動の活性化と基盤の強化を考えていきたい。今後は生前贈与のストーリーを展開し、分かりやすい寄付メニューの作成、使い方のガイドラインの作成、使用用途のメニュー、この活動に使って欲しい等を色々な見せ方を今後の展開として作っていきたい。IYE0を支える部分を一緒に話し合っていきたい。

質疑応答

（白木議長）寄付制度に関することの質問に絞ってもらいたい。
財源については、この後の議題にある。

【生田（関東ブロック）幹事】

- ・マンスリーサポーターや寄付は始まっているが、現状と今後の見込みをどういった風と考えているか。
- ・現状と今後の見込みがあればお話を聞きたかった。そもそも寄付を財源として考えてよいのか。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

- ・マンスリーサポーターは制度としては実行されているが、アクティブにはなっていない現状。幹事会のメンバーを中心に5名が登録している状況。当初は財源の補填を寄付に頼ろうということだったが、白紙になっている。現状寄付に完全に頼るのではなく、寄付もそのうちの1つとして、その他の方法を模索している。生前贈与100万円の大型寄付もその1つである。受け取ったお金をどのように組織として活用していくべきか協議していかないとけないと思っている。
- ・何に使うかを議論しないままどう集めるかを議論するのはやめる。どういう価値ある活動が出来ることがみえるとそれに対して必要なお金がいくらかどう集めるかの議論になっていく。寄付の可能性を止めたいわけではない。
- ・ボランティアもやる上に寄付もするのか、構造自体がねじれている。何が課題なのかを見える化したい。

【亀谷（近畿ブロック）幹事】

次回以後、地方IYE0の財源についても話し合う議論の場を設けて頂きたい。ご検討よろしくお願ひしたい。

【6】事業：小島副会長

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案

事業担当としては、事業を軸とした縦・横のつながりを創出・強化する、同窓会組織と事業ごとの同窓会を実施する事を中心として活動。各事業ごとの達成度を入れており、同窓会の実施、継続に向けたフレームワークづくり、活動報告、広報につき、おおむね達成だが、育成に関しては次年度の課題。来年度の計画では、今年度と同様、各事業で同窓会を開催する。その際、参加費は会員と非会員で差をつける。今年度は独立採算で実施したが、「東南アジア青年の船」事業では赤字になったので、来年度は万が一赤字の場合はIYE0の予備費から補填する。また来年度は、先日実施した「SWY34のお帰りなさいランチ会」などのように、同窓会以外にも派生ミニイベントも開催していく。活動報告の充実化としては、各事業のインスタ・HUMANO・IYE0ウェブサイトなどに掲載予定。事業広報に向けた基盤構築、公式SNS運営の強化について、日韓・育成は努力目標とする。後任幹事候補の育成も行っていく。各事業計画案は資料を参照。具体的な活動スケジュールは次回幹事会で提示予定。

質疑応答

【東京都神戸会長】

東京ならではかもしれないが、いろいろな活動、歓迎会などを事業でもやっていて、都道府県IYEOも同じようなイベントを行っていて、連動が出来ていないというのを懸念している。本部からも、オンラインで新参加青年へ相談会などを行っていたり、同じアプローチで同じターゲットをアタックしているので、受け取る側も混乱するし、都道府県に来ないとなってしまうので、情報共有しながら、そこをお互いに協働・連携できればと思う。

【小島（事業）副会長】

取り合うという考え方ではなく、新参加青年にとっては、できるだけ多くの機会があるほうが良いと思う。できるだけ日程がバッティングしないように、同窓会や派生イベントは、ブロックイベントなどIYEO公式イベントとはかぶらないように日程を調整し、日程が決まったら情報共有していくようにする。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

内閣府と推進センターへのお願いがある。事業別の実行委員会ベースで財源を持ち寄る形だが、ブロックイベントが開催される経緯やグローバルネットワークが強化されるべきという方針とからめて、ぜひ財政的支援があればとても助かる。都道府県ではない部分も活動支援をして頂けると良い。

【梅田参事官補佐】

内閣府の方でもこれまでもブロックイベントの開催や代表者会議の開催も含めて、事後活動の活性化のための支援を行ってきたが、さらにIYEO、都道府県支援の在り方を今後充実活性化していくために、どこを重点的に、どういうことが必要か、その中でこういった形で内閣府としても支援していけるか、今までと同じ形ではなく、一緒に考えていければと思っている。

【7】都道府県：佐々木副会長

① 令和4年度活動計画の進捗・令和5年度活動計画案

都道府県IYEOのみなさんの率直な意見交換の場として活動してきた。内閣府事業の経験を活かし、都道府県のやりたい青少年の人材育成、地域活性化、地域の魅力発信としてミッションをもうけ活動してきた。その為に全国井戸端会議による都道府県間の持続的な競争関係の構築。全国井戸端会議を2回実施、ブロック井戸端会議、役員との情報共有・学び合い・問題解決の場等を設けてきた。全国井戸端会議では、第1回目は役員研修、第2回目はブロックイベント引継ぎ、フリートーク、都道府県同士で悩みを話し合った。直接話し合う場は大変有効だと思われる。その際に使用した役員研修の資料などは後世のためにもよろずウェブで共有できるようにしたい。ブロックごとのメッセンジャーなどの活動もした。効果的な広報発信のため、横倉幹事に協力いただき、魅力発信、引き続き継続しながらアクティブ率を高めるための仕組みの整理、全国会議やブロックイベントの有り方の再定義など引き続き活動していきたい。

今年度一年間のミッションを、都道府県のやりたい青少年の人材育成、地域活性化、地域の魅力発信が出来るように共に考え、進んでいく伴走者になる事と決定した。具体的には、全国大会やブロック大会の在り方の検討、井戸端会議の運営によるブロック間の持続的な競争関係の構築、昨年度末から話が出ている、新会員の入会フォローを引き続きしていきたい、積極的発信文化を定着させるべく、進める予定。5つを実施予定。令和5年度のブロックイベントの日程も確定したので、秋に比較的集中しているが、ぜひ日程をあけて参加してもらいたい。昨年のお話を聞きながら、オンラインによるミーティング負担が増え、会員が増えないため、モチベーションがあがらないという声もあるが、以前のように活動できていない県もある為、状況に合わせて変化する必要があると思う。解決しなければとなるとワクワクしなくなってしまうので、自分だけでなく周りを巻き込んでブロック幹事、樋口幹事に気軽

に相談してもらえればと思う。自分で毛の悩みではない、活動歴が長い先輩につなぐ、外から見たIYEOの魅力を伝えるなど、きっかけとなり次のステップに進めればと思う。相談を頂いて、話をしていくうちに解決策が出てくる場合もあるので、そんな伴走者になりたいと思う。今後もコミュニケーションをとっていきたい。

② 東海ブロックイベント（愛知県）告知 河尻実行委員長

東海グローバルユースチャレンジャーズサミット、3月12日に実施予定。チャレンジャーは、10・20・30代・高校生大学生など幅広く参加。支援していきたい人も集めて、次のチャレンジャーを発掘していこう。1〜3部で東海からどんなチャレンジャーを出せるかというイベント。多くの方々に集まっただき、告知前で70名くらい参加予定。内閣府事業出身者がパネラーとしても作り手としても参加。社会貢献、都道府県チームと協力して実施。大学・自治体・NPOにも協力してもらい、3年間で名古屋で実施する予定。グローバルな、どれだけ新しいチャレンジを出していけるか、ブロックイベントとしての形を作っていくというチャレンジ。

【横倉（広報）幹事】

広報のあり方について、都道府県のみなさんにお願ひがある。一人一人連絡するのは大変なので、トップダウンで伝える予定だが、事業の説明会、今年度参加者の報告会等、IYEOとして引越してでも活動を続けられるIYEOとして全国の情報を集約したいと思っているため、協力をお願いしたい。

【佐々木（都道府県）副会長】

参加者募集はあるが、現状やった報告はあまりない。募集よりどんなことをやったのか写真付きのすぐわかるものの方が分かりやすい為、是非ご協力頂きたい、私からも報告をメールなどで案内できればと思う。

【樋口（都道府県）幹事】

先程、佐々木副会長から紹介があった、役員研修で使用していたIYEOの引き継ぎ書について、内容はブラッシュアップしたいが、今後よろずWebに掲載して、見られるようにしたいと思っているが、保存しておいてもらえるとよろずWebにあると、〇〇県版として、各県カスタマイズしたいと思っている（例として岸田茨城元会長が細かく引き継ぎ書を茨城版として作成していた）。会長の負担も減ると思うので、長い間やっている方は引き継ぎ書としてまわっていないため、活用して欲しい。ウェブに近々掲載するので、ぜひお願いしたい。

【横倉（広報）幹事】

会長が急に連絡が取れなくなるなど引継ぎが出来なくなるなどもあるので、よろずWebに各都道府県のBOXをつくっていくと、いなくなってアクセスできないなどがなくなるのではと思うので、対応して欲しい。

【工藤事務局長】

よろずWebの件、都道府県から規約が引き継がれていないという相談も実際に受けるので、掲載していきたいと思う。

【8】議決

（白木議長）今日IYEOが何を決議するかが大切、細かな事を決める事は無理。何を大切にしたい、どういう事を変えるかの決議をここでとる。この同意を元に各時持ち帰って、IYEO全体を変える起点をここで作られる。

主な議決は3点。一つ目は組織の在り方、全入会制度。これは問題を解決するのではなく、一つの手段としてまず取り掛かる。規約の変更等がある。二つ目は具体的なやり方、根本的

な財源の在り方を大きく変えようという議論。入会金制度に頼っていた長年の財源のあり方から、自分たちで活動原資を自分たちで精査して、必要なかチェック、どうやって支出をしていくかをみなさんで方法論を出して考えていく。来年度の目の前のこととして予算承認。財源基盤の目の前の話をやりつつ、その上のファンドレイジング、その上の充実した活動をしていく上でどうしていくかが二段階上にある。今後の推進会議の中心テーマになると思う。3年のメインの議題の一つ。規約の改正や人事案は活動計画の承認と共に各チームからの報告もあったが、来年もやっても良いかという確認。

【議決】第1号議案：令和5年度活動計画 賛成：63名・反対0名で可決

【長末会長】

外へ、未来へ、楽しくという方向性は変わらない。3つの進捗状況は会長主幹。

・都道府県・内閣府事業・社会課題解決を中心としたプロジェクトコミュニティ活動のサポート

・IYEOブランドの確立

・財政基盤の立て直し&多角化

基本的には未着手や黄色部分を令和5年度にやっていく。

財政の部分、一番大きな入会金をどうするか。

GYLS鹿児島の方で実施、当初構想していたものが実行できず、従来の全国大会の枠から出なかった。今後どうしていくのか企画そのものを再考していく。構想に近いものが今度の東海ブロックイベントなのでやってみて今後どうなるか見ながら今後どうしていくかを考えていきたいと思う。継続的に考えていくが、一旦は保留とする。令和5年度の活動計画について各チームから活動案が出ているため、それに基づき進めていければと思う。

【議決】第2号議案：IYEO規約改正 賛成：66名・反対0名で可決

【長末会長】

規約の改正は、役員の選任方法のところに解任を入れる。資料改正後が左、改正前が右、変更の下線が引かれている。2～7のところに、辞任と解任が追加されている。解任を推奨するのではなく、機能していないところを解任措置をして新しい人を補充するという考え方。

【千葉県井上会長】

一番下の補足の所で、令和5年2月25日から施行となっているのが誤りでないかと。

【長末会長】

本日議決をとるため、直ちに26日に訂正する。

【佐藤（中国ブロック）幹事】

各県でも規則や規約があるが、これに遵守して改正したほうがよいのか。

【長末会長】

各都道府県が個別にあるのであれば、それを改正する必要はない。

【議決】第3号議案：人事 賛成：66名・反対1名で可決

【小島（事業）副会長】

解任について：事業担当コア担当の高野幹事、連絡が長い間取れず、幹事会や推進会議も出席せず、最終通告継続意思の確認へも連絡がなかったため、残念だが、解任としたいと考えている。

【白木（社会貢献・財産）副会長】

社会貢献幹事に2名の新任を提案したい。社会貢献チームは一年間どういう形が良いか考え

てきた。規約の30名上限を超えない中で、金澤浩さん（キャリアデザインセミナー、神奈川IYEO副会長、本業としてキャリア開発）と河尻論さん（社会起業家支援。内閣府事業の出身者ではないが、未来創造会議にはいるためIYEO会員となった）。

【亀谷（近畿ブロック）幹事】

今のような高野幹事のような場合、地方のIYEOの会長など、役員も解任できるのか。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

幹事会と都道府県は別で考える為、該当しない。

【新任幹事あいさつ】

- ・金澤さん：これまで2年IYEOに関わってきて、組織としても高いポテンシャルを感じてきた。人を活かして色々な場を作っていきたい。これからも活発に活動していきたい。
- ・河尻さん：IYEOには面白い人が集まっているというのを聞いていて、未来創造会議をきっかけに今回関わった、色々な知見やリソースが集まっている素敵な組織だと感じているので、これから世の中も組織内部も面白くしていけたらと思う。

【議決】第4号議案：IYEOの入会率低下について考える会員制度変更案・制度案を決めていく方向性について(新しい組織の在り方について) 賛成：61名・反対2名・棄権5名で可決

【白木議長】

昨日の長末会長の提案「全入会」「マトリックス組織化」を掲げたが、多くの方から「マトリックス化」は非常に困難であるという意見が多数あり、この場では「全入会」をするという方向性、やり方をこれからつめていく事について議決をとる。全入会が解決ではない、これから着手する、変わっていく、見直しを含めて進めるという意味確認。具体的な制度の話は6月くらいに開く、それに向けて準備をしていく。

【長末会長】

全入会については、総じて異論がないように感じている、今後どのように具体的にすすめるべきかは議論の余地があると思うが、とりあえず「全入会」ですすめたいと思うため議決をとりたい。

【静岡県國分会長】

- 昨日のグーグルフォームの内容に関する回答は頂けないのか。
- 全入会する事に関する方向性の話を決める、お金の話は今後別途議論をするということか。
- 他の人がどういう考え方を持っているのかが見えていないので、近しい人は似た考えが多いと思うので、人の意見を知りたい。

【白木(社会貢献・財産)副会長】・意見交換する場が必要だと思うので、フォームを入れるだけでなく、話合うことを昨日提案した。集めたフォームの共有はしようとは思っている。また、今回議決をとるのは「全入会」についてであり、お金の話は別途議論が必要であると思う。ここから先6月のIYEO全国推進会議に向けて、この案件について積極的に考えたい方は声をあげてもらいたいし、ブロック毎で必要であれば集まり、考えたりしてもらいたい。本部と地方ではない、誰かが何かをすることではない。そこの部分自体を変えていきたい。全入会は決めたわけではない、方向性に向けて持ち帰って考える。どう持って帰るか各ブロックごとに意見交換をしてほしい。

【長末会長】

マトリックスの件でも、影響が大きいので今回の議決から外している。みなさんに、帰って、会員の方とも全入会やマトリックスに関して情報共有・議論頂いて、フィードバックを頂きたい。

全入会というより、IYEOが魅力的な活動をするというのが必要。入った人が活動する為には、自分たちが魅力的な活動をしなくてはならない。今年度入会者のうちの入金12名登録の内訳、10名正会員、2名会員、入会することのメリットを出していく事が大切。

【生田（関東ブロック）幹事】

全入会しないほうがいいという意見も関東ブロック内で話合った際にあつたため、一概に大丈夫というのは控えた方がよい。「全入会」を決めるという議決ではなくて「全入会の方向で進める」という議決ですすめてもらいたいと思う。全入会ありきと聞こえる。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

全入会は課題の一部なので、全入会を決めるわけではない。逆に代案を出してほしい。

【梅田参事官補佐】

昨日内閣府とすり合わせができていいのかという質問が出たが、我々も事前に相談はうけている。今後の手続きとしては、IYEOで議決を取ってもらった上でご相談いただくことになろうかと思うが、内閣府としては、全入会ということであれば、事業の関わりとも強くなると思うため、どういう形が望ましいか、IYEOで決めた方向性を受け止めて進めたいと思う。IYEOの活動の活発化は内閣府も必要であると思っている。それに向けてどんなサポートが出来るか議論していきたい。

【千葉県井上会長】

要望・確認、色々な事情があるので、出来れば会議の時間中にブースを作って意見を聞けるような場を作ってほしい。

全入会の方向に向けて、そうできれば良いが、結局音信不通など全入会に繋がらない可能性もあると思うので、決まった中で、そういった人が出てきた場合に今後どうしていくかも一論点として入れて欲しい。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

推進会議は三者合同のため、非常に短い時間内での審議となってしまう。推進会議の最近の取り組みとしては、最初に事前に議案の提案をお伺いしている。次回の推進会議はIYEO内構成員での会議となるので、徹底議論できるようにしたいと思う。

対面なので、話しかけて欲しい。

6月までにどう作っていくか議論する。

【鹿児島高田幹事】

6月に全入会するかしないかを議決するという事で、各都道府県に持ち帰るという事ことか。

【白木(社会貢献・財産)副会長】

何を決めるかも含めて持ち帰ってほしい。

事業が対面に切り替わっていくので、青年に受け皿を作れるか、中長期でこれから変えていく、どんな活動ができるか基盤を作っていくことを持ち帰って議論してもらいたい。

【樋口（都道府県）幹事】

IYEOは同窓会組織である為、分母はあって良いのではないかと。同窓会組織を維持サポートしていくのがIYEOであり、共通認識をもっていかないと、やりたい人だけがやるのではない。内閣府ともIYEOをどう紹介して頂けるかも相談したい。参加青年と連絡出来る体制をつくる必要がある。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

IYEOの基盤として47都道府県があるので、幹事も含めて我々のありかたの根本を見直すという事で考えていきたいと思う。新しい組織の在り方として変えていくという取り組みをしていくという方向性を決める。

【亀谷（近畿ブロック）幹事】

事業参加者を前提にした、入会の有無だろうか。事業未参加者は対象としていないのか。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

内閣府事業の参加者が前提である。色々な成り立ちがあるので都道府県とブロックでそれぞれよく話し合う必要があると思う。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

160万円、今までの活動組織、活動に沿って必要と計上されている。ただ、このお金が本当に必要なのかという議論はあると思う。本当に必要なお金なのであれば、今まで頼ってきた入会金がなく、入会率が減った中で今までの貯金を崩し運営してきたが、取り壊すばかりではいけないと思うので、このお金をどこからこれから捻出するのかという議論は必要だと思う。

【横倉（広報）幹事】

推進センターに質問、これから全入会となる場合、事務処理が増えるのではないのか。現在の試算である100万円で可能なのか。

【本田推進センター事務局長】

全入会となっても、過去に（全入会に近い状況の入会率のなか）事務経費として100万で行ってきた経験もあるので、今の時点でこの値段を上げる予定はない。推進センターはIYEOが作った法人格のある団体。IYEOの本部を推進センター内に設置することになり、管理費として本部事務取扱経費として、100万円をIYEOから推進センターに支払う形となっている。それに人件費は含まれていない。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

支出の次は、どういう選択肢の中で出していくか。都道府県や地域の代表として、収入に関する意見を頂きたい。

【千葉県井上会長】

収入の部の、8番の各県47都道府県のIYEOで負担するということか。

【白木（社会貢献・財政）副会長】

各都道府県で、必ずしも拠出せよということではなく、47都道府県の中から何かイベントを行い収入を得てもいいし、寄付金を集めてそれに当ててもいいと思うし、財源はなんでもいいが、無理やり徴収するつもりではない。むしろ都道府県のアイデア、現状や考えを聞きたい。拠出を強いているわけではない。今までの参加者と新しい人が混在しているが、三年間やっている議論。都道府県からの案・

意見で決めたい。何もないとこの案で決まってしまうので代案が欲しい。

【樋口（都道府県）幹事】

先程の全入会の話とこの財源に関しては両輪で考えないといけないと思う。昔はむしろ本部から入会費をもらっていたが、実際動けていない県は収入がなく活動財源がないのが問題となっていると思う。各都道府県それぞれ持ち帰って、もう一度真剣に考えて欲しい。各県状況が異なると思う。自分の県については出せと言われれば一応出すことはできるが、それで出せばいいという問題ではないと思う。

【本田（戦略）副会長】

資料にある、IYEO会計中間報告を参照に説明

実行額、支出を考えると今年度の繰り越しで残るのが20万円程度。非常に少ない金額しか残らないという現状。予算は予算として活動をすすめるために決議をとりたいが、6月の推進会議にて補正予算を考えると進めていくのが現実的。これからの収入の候補となるものもいくつかあるが、今年度としては一先ずサポーター制度と寄付をメイン収入とする方向ですすめたいと思う。実際に昨年12月に先輩会員から高額寄付をいただいた。名前を出してほしくないという事だが、これまでも県の活動や幹事会構成員としても活動をしてくださっている方。この方のストーリー立てをして今後会員へ広く紹介したいと考え、財政担当とも計画している。ご自身の行動が引水となってわれこそもと行動を起こす人が出てくるきっかけになってほしい、一方で自分がやったからという同調圧力になって欲しくないという思いもある。ファンドレイジングについては、去年・一昨年もスキームは同じで、成功しているとは言えないが、次年度の収入の軸は寄付を主軸としていくことを見据えた予算案を、提案したい。

【議決】第5号議案：令和5年度予算について 賛成：57名・反対4名・棄権2名で可決

【9】その他 資料報告

- IYEO全国大会実施状況
- 令和4年度IYEO青少年国際交流を考える集い（ブロックイベント）一覧&報告書
- 後援実績・協力実績・他団体への協力実績_2022（通年）
- スリランカ教育支援プロジェクト 「One More Child Goes To School」

議長解任あいさつ①：新潟県田窪会長

少し時間は伸びたが、無事に会議を終えることができ嬉しく思う。今回の会議をきっかけに、皆さんと議論しながら良いIYEOをつくっていきけるよう今後も一緒に頑張りたい。二日間ご協力御礼申し上げます。

議長解任あいさつ②：白木副会長

ありがとうございました。6・7年前くらいの非常に難しい全国推進会議を思い出した。ただ変わらないといけない時にいると思うため、自分のことは自分で考えられるよう活発な議論を今後も引き続きできればと思う。

V. 閉会挨拶

一般財団法人 青少年国際交流推進センター：駒形理事長

3年ぶりの対面の全国推進会議という事で、3年前オリンピックセンターで実施して参加したのを覚えている。コロナが迫っていたのを覚えている。理事長になって以来ずっとオンラインだったが、なんとかここに立っていただけるのを感謝したいと思う。

昨日今日の議論を聞いてIYEOも色々な課題があるなと思った。交流事業に参加して終わりで

なく、参加した後の事後活動も含めてが人材育成。参加後の事後活動においてIYEOがどういう役割を果たすのかが大切。IYEOがもしなかったら、弱体化したらどうなるのか。内閣府・IYEO・推進センターはお互い必要な関係である。そうした中で色々な活動をされていて、若い世代が活躍して、社会貢献をされているのは、社会に価値をもたらす活動をしていく、社会になくしてはならない存在になっていくのをIYEOは目指しているのだなと感じた。その中で推進センターも事業を回すだけで大変だったが、もっと社会に価値をもたらしていけないと感じた。来年推進センターは30周年を迎える為、社会に貢献できる、未来に向けた新しい取組をしていけたらと思っています。昨日今日お疲れさまでした。

以上

白木邦貞

議長

白木邦貞

日本青年国際交流機構 副会長 (社会貢献・財政)

田窪美帆

議長

田窪美帆

新潟県青年国際交流機構会長

小柳真哉

議事録署名人

小柳真哉

日本青年国際交流機構 幹事 (財政)

福島彩子

議事録署名人

福島彩子

山形県青年国際交流機構会長